

# 大学の世界展開力強化事業(2018年度選定) 東京外国語大学 取組概要

## 【事業の名称】(選定年度2018年度・(タイプA))

多文化主義的感性とコンフリクト耐性を育てる太平洋を越えたCOIL型日米教育実践

## 【交流推進事業の概要】

本事業は、東京外国語大学が国際基督教大学と協働し、カリフォルニア地域の6大学のなかの、日本研究ないしは、日本を含む東アジア研究の教育ユニットをパートナーとしてCOIL型教育のカリキュラムを実践するとともに、COIL型教育を活用して人材育成を図り、それを契機として、これらの授業に参加する学生をさらに直接の留学へと進ませることを目指している。

### 本事業の目的

多面的かつ柔軟な市民的公共性を具えた  
グローバル人材の養成



COIL型教育を契機とした  
米国大学との学生交流の拡大

### COIL型教育

#### COIL1

新しい日本文化理解と  
多元的歴史像

#### COIL2

東アジアにおける人間の安全保障  
とアメリカのプレゼンス

#### COIL3

日米間の 이슈をめぐる  
ジェンダー・スタディーズ

#### COIL4

ハザード・スタディーズ  
(震災文学、災害と防災、原発)

### 学生交流

COIL型教育受講者の学生交流  
短期留学 ▶ 中長期留学

短期・中長期留学の拡大

インターンシップ

## 【交流プログラムの概要】

COIL型教育: COIL1~4の4つのトラックを設定し、オンラインのゼミ形式の授業、オフラインのワークショップ、COILと短期・中長期留学との結合及び補助教材としてのオフライン講義を授業メニューとして実施する。

短期・中長期留学: COIL型の教育を活用して人材育成を図るとともに、それを契機に、これらの授業に参加する学生をさらに短期又は中長期の留学へと進ませる。

インターンシップ: 日本・米国の双方で留学生向けのインターンシップの機会を提供し、日本企業・米国企業をよりよく知ると同時に、交渉力・調整力を身に付けさせる。

## 【本事業で養成する人材像】

学部教育と大学院教育の双方のレベルにおいて、日米間のさまざまな課題に資するように、多面的で柔軟な市民的公共性を具えた、以下の能力を備えるグローバル人材を養成する。

<言語運用能力> 日本語・英語を高いレベルで運用できるバイリンガルな能力

<日本を含む東アジアとトランスパシフィックな地域についての知見>

旧来の日米イメージを、新たな日米関係の構築にふさわしく刷新していくことに資する、日本を含む東アジアと太平洋地域に関する社会・経済・文化をめぐる教養日本力

<多文化主義的感性>

グローバル社会化状況において、文化的社会的多様性に敏感であるとともに、異なった文化空間においても健全で文化的な協働、共生を行うことのできる多文化主義的感性

<調整力・行動力> 多様なステークホルダーの主張を理解し、実際のコンフリクトが生まれる局面においても粘り強く利害や要請を調整し、適切に自分のアイデアを表現することができるコンフリクト耐性

## 【本事業の特徴】

・東京外大とICUとの連携、また、青山学院との協力により、4つの教育トラックを構築してCOIL型教育を実践し、それを契機に、この事業に参加する学生に、さらに直接の留学へと進ませ、これによって、近年必ずしも活発ではない米国の主要な大学との間で、学生交流を活性化させる。

・本事業によるCOIL型教育のカリキュラムと、短期・中長期・インターンシップの学生交流プログラムを組み合わせ、多文化主義的感性とコンフリクト耐性を備えた卓越したグローバル人材を育成できる。

・2大学は、スーパーグローバル大学構想のもと国際化を加速させており、本事業は、こうした大学の戦略にそって実施される。また、COIL型教育の実践による本プログラムは他大学の大学間交流促進のモデルとなる。

## 【交流予定人数】

	2018	2019	2020	2021	2022
本事業における COIL型教育の受講者数(日本人学生)	46	97	116	126	131
本事業における COIL型教育の受講者数(外国人学生)	81	135	162	162	162
学生の派遣	29	33	37	41	45
学生の受入	39	43	49	54	59